

平成25年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	文化遺産保存日本信託基金拠出金(任意拠出金)		担当部局庁	外務報道官・広報文化組織		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成元年度開始		担当課室	国際文化協力室		室長 長嶋伸治		
会計区分	一般会計		政策・施策名	基本目標: VII分担金・拠出金 具体的施策: VII-3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、通知等	ユネスコとの書簡交換、文化遺産国際協力推進法(平成18年法律第97号)、文化遺産国際協力推進に関する基本方針(平成19年文科大臣・外務大臣告示)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	世界各地の文化遺産に関する豊富な情報・ネットワークを有するユネスコを通じ、日本の持つ高水準の技術を活用して、存続の危機に瀕している、当該国の国民にとってアイデンティティの象徴であり、人類共通の貴重な財産たる文化遺産の保存・修復等の支援を行う。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	ユネスコへの拠出金。ユネスコ事務局は日本政府と協議の上、本拠出金により、途上国を対象に、日本人専門家の協力を得つつ、存続の危機に瀕し緊急性が高いと判断される文化遺産の保存修復事業や関連人材育成事業を実施している。 具体的には、アンコール遺跡(カンボジア)、パーミヤン遺跡(アフガニスタン)、タンロン遺跡(ベトナム)等の保存・修復事業を実施中。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	—	—	—	—		
		繰越し等	—	—	—	—		
		計	235	216	181	173	173	
	執行額	235	216	181				
	執行率(%)	100	100	100				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	承認された新規及び継続案件の内、該当年度に活動に 進捗があった事業(ユネスコ事務局からの進捗状況報告 に基づく)。	成果実績	件	6	12	15	15	
		達成度	%	—	—	—		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	該当年度に我が国が承認し、開始された事業を指標とした。	活動実績 (当初見込み)	件	3	6	3	—	
			(3)	(6)	(3)	(2)		
単位当たりコスト	12百万円(円/1件)		算出根拠	$181\text{百万円} \div 15\text{件} = 12\text{百万円}$ (平成24年度拠出額) (平成24年度実施案件) (1件当たりコスト)				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	事業費	173	173	新しい日本のための優先課題推進枠 173百万円				
	計	173	173					

事業所管部局による点検					
	項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	・2006年に成立した我が国の文化遺産国際協力推進法の趣旨にも合致している。 ・国連の専門機関であるユネスコを通じた支援であり、国が実施すべき事業。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	・ユネスコの調達・入札は、国連システムの手続に則って行われている。 ・事業提案書は、事業担当部局又は事業担当地域事務所と途上国政府との協議を踏まえて作成され、ユネスコ内部(財務管理部)による活動支出のチェックが行われた上で、我が方の承認が求められている。 ・ユネスコ事務局は、各事業をモニタリングし、また、毎年、本信託基金について我が国外務省によるレビューを行う会合を開催し、本信託基金の運用及び個々の事業の進捗について意見交換している。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○		
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○		
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	・ユネスコは文化を所掌する唯一の国際機関であり、ユネスコが持つ専門性及び経験を活用することにより、実効性が高く、成果目標を達成できる事業が可能となる。 ・ユネスコは、途上国におけるUNチームの一員として他の機関との調整を行い、重複を避けた効率的な事業を立案できる。 ・実施した事業成果は、途上国の担当者に引き継がれており、継続性は確保されている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○		
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	左記の事業は、無形文化遺産(伝統的な音楽、舞踊、演劇、工芸技術など)の保護を行うものであり、存続の危機に瀕した遺跡等、有形文化遺産の保存・修復等の支援を行う本件事業との間では適切な役割分担がなされている。	
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名		
	272	無形文化遺産保護日本信託基金拠出金	外務省／外務報道官・広報文化組織		
点検結果	ユネスコ側の事業実施能力に特段問題はないが、裨益国側の事情(政変、治安の悪化等)によって事業が遅延する場合がある。ユネスコ事務局は、遅延の原因、責任の所在、事業への影響、再発防止のための手当てについて当方に報告を行っており、状況は把握している。				
外部有識者の所見					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	引き続き、予算の効率化や経費の節減の余地が無いか確認していく。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
現状通り					
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年	0100	平成23年	0102	平成24年	131

個別事業名: 文化遺産保存日本信託基金拠出金 (任意拠出金)

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

外務省
24年度拠出金: 181百万円

[信託基金のガイドラインの改訂、年次計画の検討、事業の審査・承認]

↓
【外国送金】

ユネスコ事務局

[年次計画の立案、日本政府への事業提案、個々の事業の実施及び日本政府への進捗状況報告]

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかにつ
いて補足する)
(単位: 百万
円)

個別事業名: 文化遺産保存日本信託基金拠出金 (任意拠出金)

A. ユネスコ事務局			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	文化遺産の保存修復	181			
計		181	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

個別事業名： 文化遺産保存日本信託基金拠出金（任意拠出金）

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ユネスコ事務局	文化遺産の保存修復	181		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					